

重点 目標	共通 項目	具体的取組	主担当	現状（H28年度結果）	評価の観点	実現状況の 達成度判断基準	判定基準	備考
1 学力向上と指導力向上（学びのロードマップの取組）	○	①基礎基本の定着 （学校統一漢字・計算テスト）	研究・学習支援部	<A評価> 学校統一テスト（漢字・計算）では達成感を大切に にする。100点目指して努力する過程に重点を 置く。計算テストにおいては、その学年の児童が 苦手な問題についても出題する。	学年相当の漢字や計算の力がついて いる。 目標値 90点以上	A：90%以上が目標を達成 B：80%～90%が目標を達成 C：80%未満が目標を達成	Aが80%未満の場合 改善策を検討する。	学校統一テスト（漢 字・計算）の結果 （参照） 7月・12月 児童・職員対象
	○	②基礎基本の定着 （朝学習・パワーアップタイム等）	研究・学習支援部	<新> 基礎基本の定着のためには計画的な学習の実施が 必要である。	「朝学習」「パワーアップタイム」 の15分間を集中して取り組むよう な準備・指導をしている。	A：毎日できた B：週の半分はできた C：できたのは週半分以下	Aが80%未満の場合 改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	③表現する力の育成 （根拠や筋道を意識して考えを 表出している）	研究・授業研究部	<B評価> 人前で自分の考えを分かりやすく話すことに慣れ ておらず、抵抗感のある児童もいる。授業ではベ アやグループ等の発表の場を設ける。根拠をつけ て話す話し方の指導に力をいれる。	児童は、根拠や筋道を意識して自分 の考えを伝えている。	A：80%以上ができる B：70%～80%ができる C：70%未満ができる	A+Bが90%未満の 場合改善策を検討す る。	7月・12月 児童・職員対象
	○	④家庭学習の充実と習慣化 （学年×10分の定着）	研究・学習支援部	<B評価> 各担任が家庭と連携を図り児童にも働きかけるこ とで、家庭学習にきちんと取り組む児童が増えて いる。この働きかけを継続し、強化週間の取組や 自学ノートの掲示等を通じて家庭学習習慣を身に つけさせるとともに、学習内容を充実させる。	児童に（学年×10分）の家庭学習 習慣が身につけている。	A：90%以上ができる B：80%～90%ができる C：80%未満ができる	Aが80%未満の場合 改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員・保護者対 象
	○	⑤学習規律の定着	研究・学習支援部	<B評価> 児童の実態把握を行い、低・中・高別に課題を設 定し聴く姿に重点をおいて指導したことが、評価 向上につながった。 教室掲示の学習規律の内容を絞ること・各家庭に 学校での学習規律について発信することに取り組 んでいく。	学年に応じた学習規律が身につけ ている。	A：90%以上が身につけている B：80%～90%が身につけている C：80%未満が身につけている	Aが80%未満の場合 改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員対象
	○	⑥学校研究の重点に沿った授業実践 （相互授業参観、授業づくり自己診 断表等を通して学校研究の重点 を意識した授業づくりを行う）	研究・授業研究部	<新> 本年度、学校研究の主題を「自ら考え、学び合う 子」とした。日常的に学校研究の重点を意識した 授業を積み重ねていく必要がある。	相互授業参観や授業づくり自己診断 表を通して、学校研究の重点を意識 した授業をしている。	A：80%以上の授業でしている B：70%以上～80%の授業でしている C：70%未満でしている	Aが90%未満の場合 改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	⑦校内研究会の活性化	研究・授業研究部	<新> 事後研の方法を変えたことにより、参観者が効率 よく意見を出し合えるようになり、話し合いが充実 してきた。授業についての意識も高まり、指導力 向上につながってきた。さらに積極的な協議で研 究を深めていく。	学校研究の重点に沿って成果や課題 を考え、研究会で質問や意見、提案 を述べている。	A：毎回述べる事ができた B：ほぼ述べる事ができた C：できない事が多かった	A+Bが90%未満の 場合、改善策を検討 する。	7月・12月 職員対象
	○	⑧情報機器を活用した授業実践	情報担当	<A評価> 夏休みに校内の情報機器の整理と操作マニュアル の作成を行ったことで、大型テレビ・タブレッ ト・電子黒板・書画カメラ等、様々な情報機器を 活用するようになった。しかし、児童の協同学習 等で利用することは少ないので、利用促進を図っ ていく。	情報機器を授業に活用したり、児童 の協同学習に利用したりしている。	A：よくあてはまる（90%以上） B：だいたいあてはまる（80%～90%） C：あてはまらない（80%未満）	Aが80%未満の場 合、改善策を検討す る。	7月・12月 職員対象

2 豊かな心の育成と生徒指導の充実	○	①その場に応じた正しい言葉づかい、思いやる言葉づかい	生徒指導部	<p><C評価> 言葉づかいの良い・悪いの判断基準が明確でないことが評価の低い要因であると考える。場に応じた言葉づかいについては、敬語を使っていたり相手に伝わる挨拶をしていたりと良い姿が見られる。来年度は、友達に対する思いやりのある言葉づかいに絞って指導する。</p>	場に応じた正しい言葉づかい、思いやる言葉づかいをしている。	<p>A : 90%以上がしている B : 80%以上～90%がしている C : 80%未満がしている</p>	A+Bが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員・保護者対象
	○	②いじめのない温かい学級づくり	特別活動部	<p><A評価> 継続的な縦割り班活動の取組が温かな人間関係を育んでいる。反面、言葉づかいの自己評価が低いため、温かな人間関係は優しい言葉かけによって築かれているということ意識して伝えていく必要がある。来年度、人間関係づくり年間指導計画を見直す。</p>	「人間関係づくり年間指導計画」を活用して、温かい学級づくりに取り組んでいる。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員対象
	○	③主体的に取り組む特別活動 (学級活動や児童会活動等で児童の自主性を養う)	特別活動部	<p><A評価> 委員会活動でイベントを企画して実行したことで、高学年は主体性を、低学年は憧れや感謝の心を育むことができた。来年度も異学年交流・縦割り班活動を推進していく。</p>	主体的によりよい学校生活を築こうとする態度を育てている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員対象
	○	④道徳教育の充実 (道徳の教科化に向け、考え議論する道徳授業の実践)	道徳推進教師	<p><B評価> 各学級に道徳コーナーを設置したり、道徳でゲストティーチャを活用した授業を実施したりした。道徳の授業の内容について、学年だより等で広めることで、保護者にも道徳について知ってもらうことができた。</p>	児童が考えを交流し合う時間を十分にとり、考え議論する道徳授業の実践に努めている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	A+Bが90%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	⑤個別の指導計画や教育支援計画の作成と有効活用	特別支援コーディネーター	<p><B評価> 学習に支援が必要な児童や人間関係づくりに支援が必要な児童についての共通理解は図られてきた。今後は、特別支援校内委員会を定期的に関いたり、専門的な立場からの助言をいただいたりすることで、個別の指導計画を生かしてよりきめ細かな対応をしていく。</p>	個別の指導計画や教育支援計画を作成し、有効活用している。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが90%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	⑥読書の習慣化 (集中して読書に取り組める環境づくりと年間の個人目標の設定の取組)	図書担当	<p><C評価> 貸し出し目標冊数に到達しても、読書の満足感がない児童がいたり、集中して読書ができていない児童がいたりする。そこで、目標冊数だけでなく、教室に児童に合った本を置いたり、担当が本の準備や選書についてアドバイスしたりして、読書環境を整える。</p>	読書目標冊数の到達とともに、読書環境の充実にも努めている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	A+Bが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員対象
3 体力向上と危機管理の育成	○	①早寝・早起き・朝ごはんの定着	保健安全指導部	<p><B評価> 健康パワーアップ大作戦の取組では、保護者から毎日サインをもらう蘭を設け、家庭の協力を得られるようにした。学校保健委員会の開催日を工夫し、保護者に対する望ましい生活習慣等に啓蒙に努めた。学校と家庭が連携して規則正しい生活習慣を身につけさせていく。</p>	早寝早起き朝ごはんの習慣が身につけている。	<p>A : 90%以上の児童が身につけている B : 80%以上～90%が身につけている C : 80%未満が身につけている</p>	Aが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員・保護者対象
	○	②体力・運動能力調査の実施・分析・取組	体育担当	<p><A評価> 反復横跳びは5年男子、6年男子、6年女子が県平均を下回った。50m走も県平均を下回った。来年度は体育の授業の準備運動で、反復横跳びと短距離走を取り入れ、敏捷性と走力を高めていく。</p>	体力・運動能力調査による課題に対して取組を行っている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%～90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 職員対象

	○	③危機予測能力・危機回避能力の育成	保健安全指導部	<p><A評価> 今年度は2回予告無しで訓練を行った。児童は日頃の訓練の積み重ねで非難行動が身についている。いろいろな場面を想定した避難訓練を計画的に実施し、その都度防災意識の向上に努める。</p>	避難訓練のねらいに応じた具体的な指導を行い、振りかえりを行っている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが80%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 児童・職員対象
4		①校務分掌の課題の明確化と改善策の実施	教務部	<p><新> 本年度、校務分掌組織を見直した。職員一人ひとりが課題を明確にし、次の改善策に取り組む。</p>	課題を把握し、次につなげる為の効果的な振りかえりを行っている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	A+Bが90%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	②学びのロードマップの計画的実践	教務・学習支援部	<p><新> 本年度、各取組のリーダーを明確にした。各リーダーを中心に、学力向上の取組を共通理解して実践する。</p>	学びのロードマップの取組について共通理解・共通実践をしている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	A+Bが90%未満の場合、改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
5		①積極的な情報公開 (学校だより・学年だより・学校ホームページ等)	教頭 情報担当	<p><A評価> 保護者や地域の方がホームページ、学校だより等をよく見て頂いていることに感謝し、積極的な発信に努める。今後は、ホームページに学校だより・学年だより・保健だより、給食だより等定期的に発信するものをしっかりアップしていきたい。</p>	学校だより・学年だより・ホームページ等を通して学校情報を発信している。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが90%未満の場合改善策を検討する。	7月・12月 職員・保護者対象
	○	②地域と連携し、太鼓を中心とした地域の伝統文化の継承	教務部	<p><A評価> 今年度も指導者の方々の協力を頂いて3地区の太鼓を練習し、運動会・敬老会・ござっさい祭りで披露する場を設けることが出来たし、模造紙に書かれた楽譜を使って、6年生から5年生に教えることも出来た。上級生から下級生に伝えていくことが、良き伝統となるよう、今後も取組を継続していく。</p>	太鼓の継承を積極的に行っている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが90%未満の場合改善策を検討する。	7月・12月 職員対象
	○	③幼小小及び小中連携の推進 (情報交換による相互理解、園児・児童・生徒の交流活動の実施)	連携担当	<p><A評価> 幼小連携では、様々な機会を通して年長児の様子を知ることができている。今年度は9月に3年生が学校紹介を行い、年長児と関わることができた。 小中連携では、ノーメディアデーの取組を小中同時期に行うことで成果をあげることができた。今後も一時的な交流だけでなく、継続した取組を行っていく。</p>	保育園・中学校の相互授業参観や情報交換会、児童と園児や生徒との交流活動を積極的に行っている。	<p>A : よくあてはまる (90%以上) B : だいたいあてはまる (80%~90%) C : あてはまらない (80%未満)</p>	Aが90%未満の場合改善策を検討する。	7月・12月 職員対象